

**国際連合安全保障理事会改革に関する
G 4（日本、ブラジル、ドイツ、インド）外相会合
共同プレス・ステートメント（仮訳）**

1 2023年9月21日、G 4の外相である、マウロ・ヴィエイラ・ブラジル外務大臣、アナレーナ・ベアボック・ドイツ連邦共和国外務大臣、上川陽子日本国外務大臣及びサンジェイ・ヴァルマ・インド次官は、第78回国連総会の機会を捉え、国際連合安全保障理事会の改革に関する交渉の現状について意見交換を行った。

2 G 4外相は、複数かつ複雑な危機により多国間主義が重圧を受けていることを強調した。また、安全保障理事会が今日のグローバルな諸課題に効果的かつ迅速に対処できてないことは、その包括的な改革を行い、現代の地政学的現実をよりよく反映することの緊急の必要性を明らかにしているとの認識で一致した。

3 G 4外相は、安全保障理事会をより代表性、正統性、実効性、効率性の高い機関とするためには、常任及び非常任の双方の理事国のカテゴリーの拡大が不可欠であることを再確認した。

4 安全保障理事会の改革の必要性を明確に示した国連加盟国の記録的な数に留意し、G 4外相はこの重要かつ緊急の課題に関する議論を進展させるための新たなモメンタムを強調した。

5 G 4外相は、安全保障理事会の常任及び非常任の双方の理事国のカテゴリーにおいて途上国の役割と参加を向上する必要があるとの認識で一致した。安全保障理事会における代表という点に関して、歴史的不正義を認識し、アフリカ、ラテンアメリカ及びカリブのような代表性が低い及び代表されていないグループ及び地域の参加を向上させることの重要性を強調した。

6 この文脈で、G 4外相は、アフリカ共通ポジションへの強い支持を再確認し、エズウィニ合意及びシルテ宣言に謳われているアフリカ共通ポジションに沿い、改革及び拡大された安全保障理事会の常任及び非常任の双方の理事国のカテゴリーにおいて、アフリカが代表される必要があることを強調した。

7 G 4外相は、第77回国連総会での作業を振り返り、ウェブキャストの導入や全ての政府間交渉関連文書の保存場所となるウェブサイトの設置といった、政府間交渉の可視性と透明性を向上させるために取られたステップに留意した。

8 G 4外相は、他方で、政府間交渉において安全保障理事会の改革に関する意

味のある進展が得られていない状況が続いていることに強い懸念を表明した。この文脈で、G 4 外相は、個別のモデル提案についての構造化された議論に関する共同議長の提案に留意し、総会議長及び共同議長による、政府間交渉においてこれ以上の遅滞なく文言ベース交渉を開始するための取組を奨励した。G 4 外相は、その際、国連憲章及び総会手続規則が定める意思決定の要件と作業方法に従うことの重要性を強調した。G 4 外相は、期限を設けて具体的成果を達成するとの狙いの下、第 78 回国連総会においてこの問題に取り組むとのコミットメントを再確認し、全ての加盟国と対話を強化することで一致した。

9 G 4 外相は、2024 年の未来サミットや 2025 年の国連創設 80 周年のような今後の重要なマイルストーンとなる行事の重要性を強調した。

10 G 4 外相は、安全保障理事会において、国際の平和及び安全の維持に主要な貢献を果たしている国として、G 4 メンバーの役割と参加を向上する必要があるとの認識で一致し、改革された安全保障理事会において、新常任理事国になることを目指し、相互の立候補を支持することを改めて表明した。

11 G 4 外相は、国際ガバナンス構造の将来は、その適応能力と目的に合致したものであり続ける能力にかかっていることを強調した。国連安全保障理事会の改革に時間がかかるほど、その実効性にはより疑問がもたれるだろう。